音楽科

教科領域研究テーマ
【音故知新！　幸せ感じる音楽の力】



音楽科

教科別研究テーマ

【音故知新！　幸せ感じる音楽の力】

音楽科

音故知新！　幸せ感じる音楽の力

実　践　者　来嶋　英生
愛媛大学研究パートナー　井上　洋一

第１章　はじめに

１　研究テーマ設定の理由

私たちの周りにある様々な音楽は，昔からの音楽を土台としている。そして音楽には本校が求める「きょうどう」の精神を含んでいると言える。音楽に内在するものと音楽の演奏・聴取によって惹き起こされるものである。前者は，主旋律と副旋律の関係，ハーモニー感や音色の調和など，互いを調和させたり，際立たせたりするなどの仕組みを学習していくことである。後者は，演奏・聴取を通してそれらを読み取り再構築していく際に，自分と向き合ったり，仲間と関わったりするといった，コミュニケートすることを促すという点である。

音楽科では，「きょうどう」の精神を育てるために，昔から愛されてきた音楽の良さを学び，それを活用する実践を行ってきた。そして，新しい音楽と出会った時に既習内容を活用して思考・判断し，音楽を表現したり鑑賞したりする生徒の育成を目指してきた。今年次も「主体的に持続可能な社会の形成に参画できる」生徒の育成のために，「自立」と「共生」の力の中から，特に「多様な価値観を認める力」「自分の気持ちや考えを表現し，伝える力」を意識し，それらの力の伸長を目指す。知性や感性を含めた判断力・思考力を高める役割を果たしている「感動」という視点から生徒を見取り，「幸せ感じる音楽の力」とは何か，人間と音楽の関係性を考えていきたい。

２　具体的な研究内容・方法，望ましい子ども像に迫るための工夫点等

仲間と「きょうどう」し，音楽をつくり上げる体験を積み重ねることで，音楽に対する感性を豊かにし，音楽活動の基礎的な能力を伸ばしていく。生涯にわたって音楽を愛好する生徒を育てるために，心を伴った知識を仲間と拡げていく授業を構成することで，よりよいものを追究する生徒を育成したい。そのために，生徒の実態（発達段階）を考慮し，音の記憶をより深化させ，音楽を統合的に捉えさせようとする。

(1)　学習した内容や技能を活用する教材選択や題材構成の見直し

多面的・多角的な思考・判断をするためには，知識が必要となる。単に用語の意味を知っているだけでなく，音楽活動を通して，その意味を肌で感じさせ，心を伴った知になるようにしたい。また，学習した内容を活用し，より深い思考･判断できるように，鑑賞と表現，創作活動と鑑賞･表現の関連を図った題材構成を工夫する。さらに，「できた，分かった」という実感を伴うことができるよう，技術面からのアプローチも行う。行事，総合的な学習の時間などの生徒の体験・経験を考慮した題材構成，教材選択をする。

(2)　「きょうどう」の精神（協同・協働）が発揮できる場の充実

生徒同士が相談しながら問題を解決していく場を充実させる。生徒の発達段階を考慮し，基礎･基本の到達点を明確にするとともに，その基礎的事項を活用し，高め合うことができるよう教師のコーディネート力を高めたい。また，学習形態を工夫し，生徒の気付きが広がる学びの場を設定する。

(3) 子どもの変容の見取り

生徒の変容，生徒の音楽の「感動」場面を知るために，授業内での個の活動の様子や変容を観察したり，授業中の発言や感想文などから，見取る。また，アンケートによって授業における「感動」の要因を分析する。さらに，教師はそれらを生かし生徒の伸びを把握するとともに，生徒が見通しを持ったり，振り返ったりすることができるようフィードバックしていく。

第２章　研究の実際

昨年次，１年生において，鑑賞と創作活動の関連を図るために，パッヘルベルの「カノン」をもとに，そのコード進行から旋律を考える活動を行った。「友だちの作品が参考になった」「iPadの操作法を友だちが教えてくれてうれしかった」など，「音楽表現を仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜び」に該当する回答が多かったが，「旋律をつくるのは難しい」という感想も多く見られた。そこで，今年次は２小節のメロディーをつくらせる活動に変更した。ソネットをもとにした「春」「冬」，標題音楽である「モルダウ」を学習した後，日本の四季から受けるイメージを短い詩つくらせ，リコーダーを活用して創作させた。

	ねらい　○学習内容　・学習活動	具体的評価規準（評価方法）	共通事項
第1次（5時間）	**物語の進行と曲想の変かとのかかわりを感じ取って鑑賞しよう。【どんな心情を表している？】 教材：シューベルト「魔王」ライヒャルト「魔王」**		
	○どんな話なのか話し合う。 ○ピアノの伴奏が表しているものは何か話し合う。 ○登場人物の性格について話し合い，自分たちで配役をして，「魔王」の朗読劇を行う。 ○４役を１人の人がどのように歌い分けているか話し合う。 ○ライヒャルトの「魔王」と比較鑑賞をする。	ア―①，エ―① （ワークシートの分析，観察） ア―②，イ―① （観察） ア―①，エ―③ （ワークシートの分析，観察）	リズム，速度 音色，強弱 旋律
第2次（4時間）	**ソネットと音楽とのかかわりを確かめ，曲想を感じ取って鑑賞しよう。【どんな情景？】 教材：四季より「春」「冬」「白い道」**		
	○弦楽器，チェンバロについて知る。 ○「春」について，ソネットと音楽のかかわりを知る。 ○「冬」について，ソネットと音楽のかかわりを知る。 ○情景をイメージして「白い道」を歌う。	ア―①，エ―② （ワークシートの分析，観察） ア―④，ウ―①，② （観察）	音色 強弱 リズム 強弱
第3次（2時間）	**情景と曲想の変化の関わりを味わいながら鑑賞しよう。【どんな情景？part2】教材：「ブルタバ」**		
	○オーケストラについて知る。 ○情景と曲想との関わりについて，意見交換をする。	ア―①，エ―② （ワークシートの分析，観察）	強弱 旋律 調 音色
第4次（4時間）	**自然の様子を音楽であらわそう【オリジナル曲をつくろう】教材：オリジナル曲**		
	○四季をテーマに，短い詩をつくり，それを表す旋律をつくる。 ○グループで意見を出し合いながら，旋律をつなげ，創作する。 ○リコーダーでつくった曲を発表する。 ○作品について相互評価をする。	ア―③，イ―② （ワークシートの分析，観察）	リズム 旋律 速度
第5次（3時間）	**情景を思い浮かべ，曲想を感じ取って歌おう【言葉のニュアンスを表現しよう】教材：「夏の思い出」**		
	○作曲者・作詞者ついて知る。 ○歌詞から情景を思い浮かべ，強弱との関わりを感じ取って歌う。 ○言葉の抑揚とリズムと，旋律のかかわりを感じ取って歌う。	ア―④，イ―③，ウ―①②③ （観察，歌唱テスト）	強弱 旋律

「情景と音楽」指導計画

	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	①楽曲の特徴や演奏の違いなどを意識して，鑑賞することができる。 ②仲間と協力をして，朗読劇を行うことができる。 ③イメージを持って，仲間と協力して旋律を作ったり，練習したりすることができる。 ④歌唱技能を伸ばそうと努めることができる。	①朗読劇の活動を通して，登場人物の性格や曲想から，工夫した演技をすることができる。 ②意図を持って，イメージを音にすることができる。 ③日本の歌の持つ言葉の美しさや特情を味わい，曲にふさわしい表現を工夫する。	①正しいリズム・音程で歌うことができる。 ②豊か響きを持った歌声をイメージし，歌うことができる。 ③強弱の意味を理解し，歌うことができる。	①曲全体の曲想を感じ取ることができる。 ②曲を特徴づけている諸要素を感じ取ることができる。 ③奏者の違いを感じ取り，表現の多様さに気付くことができる。

題材の評価規準

そして，各々がつくったメロディーをもとにグループで組み合わせたり，発展させたりし，【協同】して活動する場を設けた。グループで考えた曲を演奏させ，他のグループの良さを見付けさせた。上の表は５月から行った１年生「情景と音楽」における指導計画（概略）と題材の評価規準である。

以下，第４次（４／４）創作の発表の時間について取り上げる。

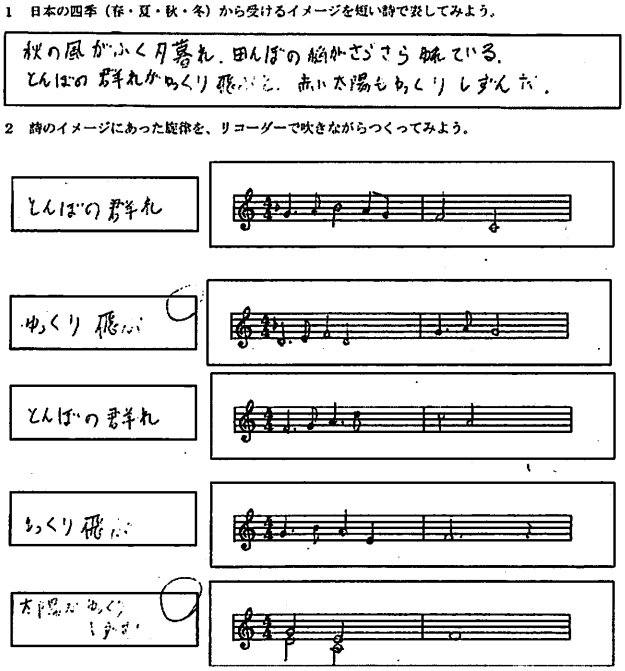
(1) **主　題**　「自然の様子を音楽で表そう～仲間のつくった曲の良さを見付けよう～」

(2) **ねらい**

○仲間がつくった曲の良さを見つけよう。

(3) **展　開**

学習活動（形態）	時間	○指導の工夫／発言　・生徒の反応
1　学習のねらいを確認する。　（一斉）	5	
どんな情景をイメージする!?仲間がつくった曲のよさを見つけよう		
2　グループで発表に向けての最終確認をする。（小集団）	15	○演奏が不安なグループにアドバイスをした。 ・リコーダーの指使いが難しい。 ・友だちとうまく合わない。 ・最後をゆっくりしよう。 ・最後をハモらせよう。
3　仲間の演奏を聴き，良さを見付けよう。（全体）	25	○仲間の演奏の良さを指摘できるように，各グループの良さをワークシートに記入させた。 **○生徒の良さを共有しやすくするために，音楽の要素を根拠にした生徒の発言を取り上げた。【協同】**



生徒作品１

・秋の２班です。「秋の風がふく夕暮れ，田んぼの稲がさらさらゆれている。とんぼの群れが飛ぶと赤い太陽もゆっくりと沈んだ。」という詩をつくりました。それぞれの旋律を紹介します。「とんぼの群れ」はこんなメロディーです。「ゆっくり飛ぶ」は……「とんぼの群れ」「ゆっくり飛ぶ」の違うメロディーも考えました。「太陽がゆっくり沈む」はこんなメロディーです。（演奏）

・とてもよかったです。

○『どんなところがよかったですか。』

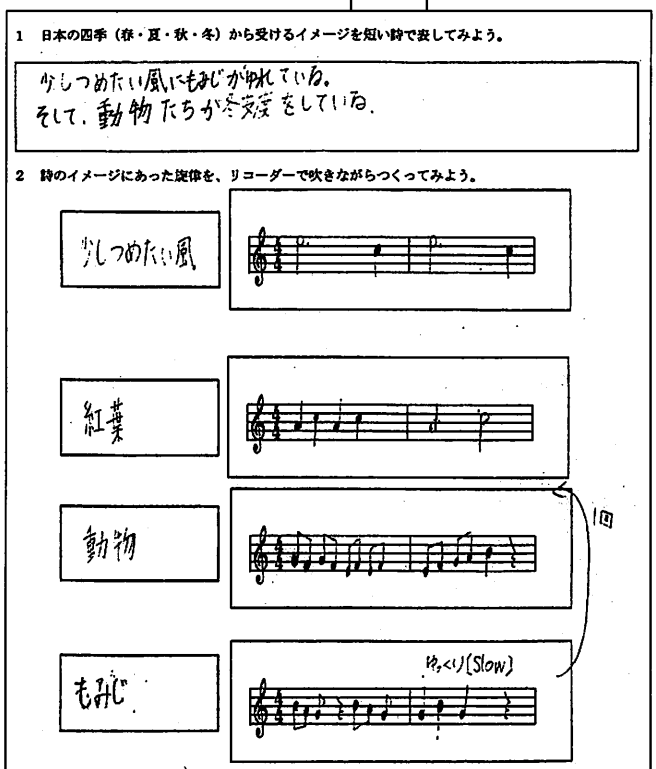
・最後のハモっているところがよかったです。

○『「太陽がゆっくり沈む」のところです。もう一度吹いてくれる？』

○『最後は同じ音になるのですね。なぜそうしたのですか。』
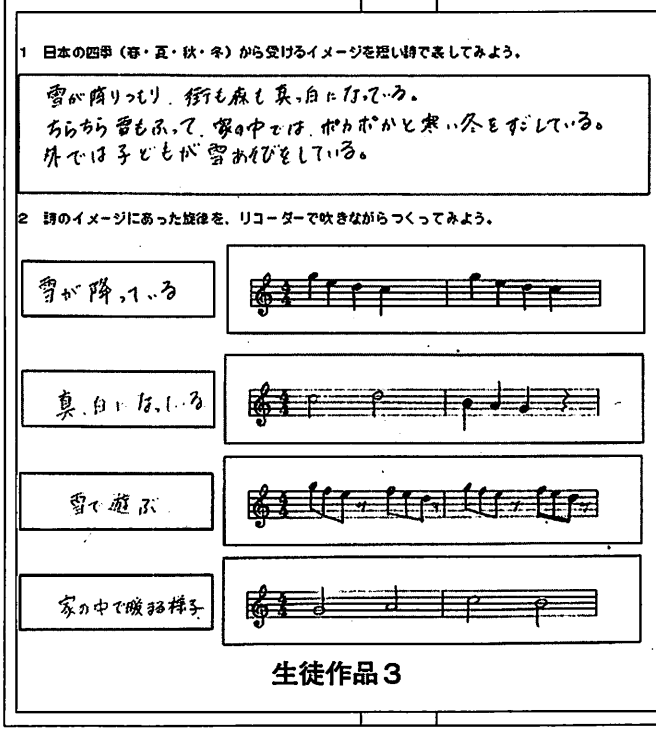
・特にありません。

○『和音が二つから一つになることで，なんだか沈んだ感じが増しますね。沈んでいる様子がイメージできました。』
○『似たリズムを使って旋律がつくられていましたね。』



生徒作品２

・私たちのグループは「冷たい風にもみじがゆれている。そして動物たちが冬支度をしている。」という詩をつくりました。（演奏）
○『どんなところがよかったですか。』
・いいメロディーで２人重ねていたところがよかったです。
・最後がゆっくりしていて，もみじが舞い散る様子が思い浮かびました。
・繰り返すという考えがおもしろいと思いました。
・細かいリズムでテンポがすごくよかったです。
○『「動物」のところをもう一回吹いてくれる？８分音符になっていて，音も近い「ソ」「ファ」を繰り返していましたね。小さな動物がソワソワしている感じかな。その後，音が上行していましたね。さらに冬支度でソワソワ感がでていましたね。おもしろい。』



生徒作品３

・私たちの班は「雪が降り積もり，街も森も真っ白になっている。ちらちら雪もふって，家の中ではポカポカと寒い冬過ごしている。外では子どもが雪遊びをしている」という詩をつくりました。（演奏）
・速いところとゆっくりなところがありました。
○『ゆっくりってどこですか？』
・最後のところです。
○『最後は２分音符になってました。リズムが変わったのですね。
・全体的に音が高くて，冬な感じがしました。
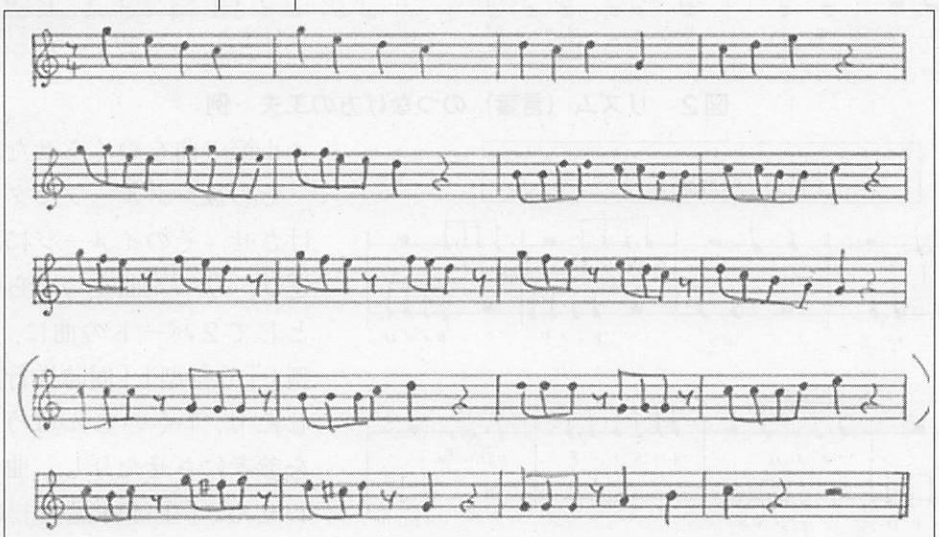


写真１　発表の様子

- リズムがよく，雪山からそりで滑っている感じがしました。』
- かわいらしい雪みたいな感じがしました。
- 特にはありません。

○『「雪が降っている」と「雪で遊んでいる」を吹いてみて。雪みたいやね。音が下降しているのは何か意図があるの？』

○『下降形が雪がちらちら降る様子を表しているようですね。』



生徒作品３－２

４　振り返りをしよう （個人）	５

第３章　研究のまとめ

１　考察

(1)　学習した内容や技能を活用する教材選択や題材構成の見直し

仲間の発表から音楽の感受と知覚を結び付け，鑑賞・創作できるよう題材を構成した。「春」の授業では，「チェロの同じ低音の小刻みな動き」が「雷鳴」，ヴァイオリンの高い上行型の旋律が「稲妻」をイメージすると発表したり，ヴァイオリンの16分音符の高音での動きから，小鳥のさえずりとイメージしたりするなど，イメージと音楽が醸し出す雰囲気が結びついていた意見が見られた。「風が吹きかかると，どの泉もやさしくささやき流れ出す」の雰囲気を出すために，音高の近い音の繰り返しや細かなリズムをつかっていることを理由として述べた生徒もいた。それを受けて「自然の様子を音楽であらわそう」ではヴィヴァルディの「春」や「冬」を模倣し，詩を考えたり，音の高低を意識して旋律をつくったりした生徒が多く，学習を活用しようとする姿勢が伺えた。「優しい感じを出すにはどうすればよいか，少し悲しい感じを伝えるにはどんなメロディーがよいかなどを，テンポをゆっくりしたり，短調を使ったりした」と感想を書いた生徒もおり，音楽の要素を生かして創作しようとする姿勢も見られた。第４次（４/４）創作の発表の時間のように，「○○な感じ」と感覚的な捉えだけでなく，音楽の要素をもとに，仲間の作

品の良さを述べた生徒も見られた。仲間の意見を聞き，音楽のおもしろさを共有したことで，学習内容を活用し課題に追究する姿勢が伺えた。題材構成が有効だと感じた。

旋律をつくることが難しい生徒が多かったクラスがあり，そのクラスでは［リズム］を中心としたリズム曲もつくらせたりした。教科書(教育出版社)に掲載されている「くいしんぼうのラップ」を学習し，それを参考にさせた。スモールステップで創作ができるように，図１のように，食べ物，乗り物といった身近な言葉に，音符でリズムをつけさせた。それらのつなげ方を工夫して，

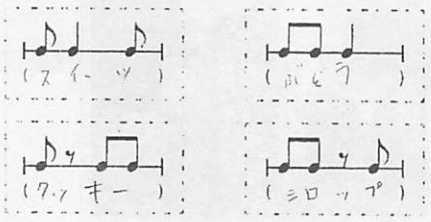


図１　身近な言葉にリズムをつけよう

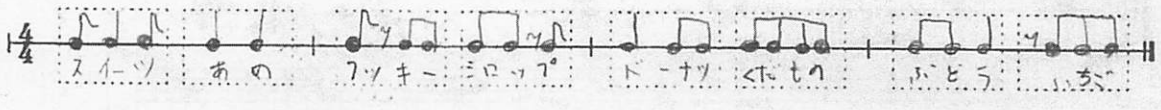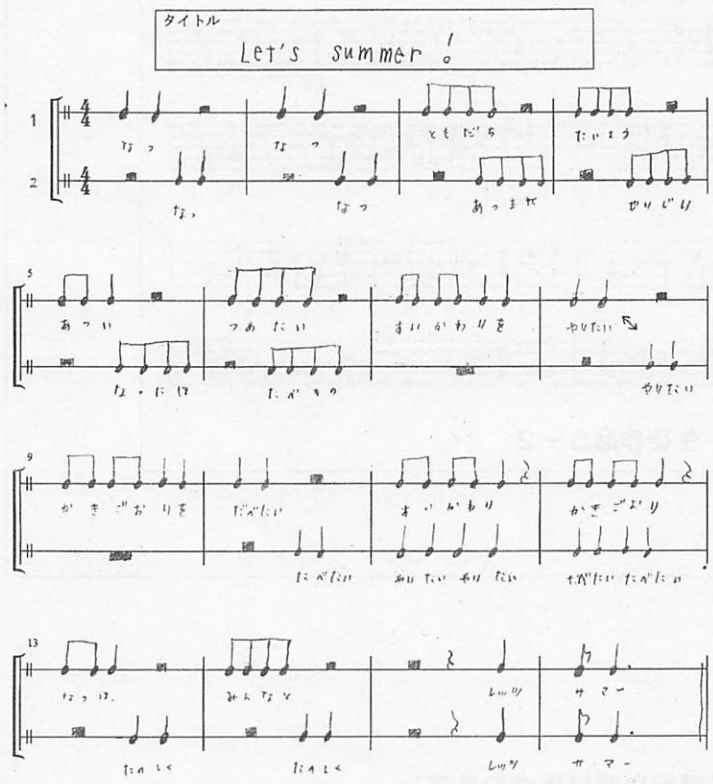


図２　リズム（言葉）のつなげ方の工夫　例

４小節の曲をつくらせた。（図２）

その後，グループでタイトルをつけさせ，そのイメージにあう言葉を選び，リズム曲をつくらせた。発展として２パートの曲に，「追いかけ型」「分割型」「同時進行型」を提示したり，「くいしんぼうのラップ」を参考にさせたりし，曲づくりを行わせた。「生徒作品４」は，生徒がつくった曲である。「なつ」「なつ」と追いかけたり，「ともだち」「あつまれ」などと分割したり，「すいかわり　かきごおり」と「やりたい　たべたい」と同時進行したりと工夫をした。



生徒作品４

活動を終えて，「言葉の重なりがおもしろい」「いろいろな単語やことわざが出てきておもしろい」「同じリズムでもいろいろな音楽がつくれるのはおもしろい」「発表で，男子と女子とに分かれ，低音・高音になっていて聞き取りやすかった」などの感想が見られた。

題材前・後にアンケートをとり，比較した。リズム曲の創作を取り入れたクラスも，短い詩から旋律だけをつくったクラスも，「音楽のリズムや旋律の特徴を聴き取っていますか」「音楽の特徴や演奏の良さを言葉であらわそうとしています」「歌詞の内容を味わっていますか」の項目において，「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答において，顕著に増加傾向が見られた。

	音楽のリズムや旋律の特徴を聴き取っていますか		音楽の特徴や演奏の良さを言葉であらわそうとしています		歌詞の内容を味わっていますか	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月
そう思う	45%	60%	43%	54%	45%	57%
どちらかと言えばそう思う	40%	37%	43%	46%	43%	40%
どちらかと言えばそう思わない	10%	3%	10%	0%	13%	3%
思わない	5%	0%	5%	0%	0%	0%

ラップ曲の創作を加えたクラス（40名）アンケートの比較

題材終了後のアンケートからも，ねらいである「心情や情景と音楽との関係」「心情や音楽表現の関わり」をほとんどの生徒が「理解できた」と答えている。特に「春」での感動分類からは，リズムや旋律の動き・強弱，旋律の動きなどの音楽の要素と情景や心情を表すための作曲者の工夫が結びつきによる感動や，心情の変化による音楽表現の違いを感じ取ることができた喜びが多く見られた。仲間と協力して創作している場面や創作の作品発表の場面，作品からは鑑賞で学んだことを創作において生かそうとした生徒が多くみられ，創作と鑑賞の一体化として一定の効果が得られたと考えられる。

(2) 「きょうどう」の精神（協同・協働）が発揮できる場の充実

「魔王」における朗読劇と創作活動において，〔協同〕の精神が発揮できる場を設定した。

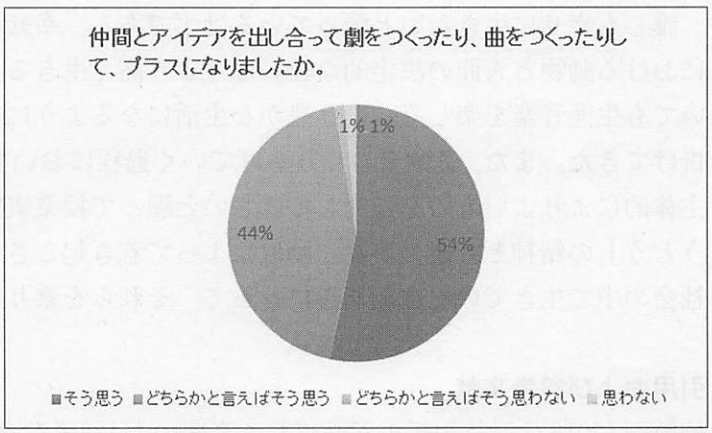
「魔王」の朗読劇では，「もっと声を低くしてゆっくり読んだら，魔王の感じがでる」とか「子どものおびえている感じを出すために，高い声で読むといい」とアドバイスをしながら活動していた。一方で何度か読んで終わったり，うまく膝を向き合わせて活動できなかったりする生徒も見られ，課題が残った。

創作活動（自然の様子を音楽で表現しよう）では，創作活動の経験の差から，仲間と協力して旋律をつくらせ，〔協同〕の精神が発揮できるように考えた。特に発表後に行った感想には各班の良さを見付け，共感する姿勢が見られた。

「冬の班がちがうリズムを重ねていたので，大勢が走っているように感じた。」

「いろいろな音をばらばらに使った班もあれば，似ている音をまとめて使っている班もありました。」

「繰り返しの旋律を使って，リズムを出したり，高い音と低い音を使い分けてうまく音を出したり工夫しているところがおもしろかった。」



「題材後の感動分類」では，生徒の記述が少なかったが，題材後のアンケートからは，仲間との活動がプラスに働いていることが分かる。

(3) 子どもの見取りと評価

題材終了後，感動したことや発見したことを自由に書かせ，①～⑤に分類した。そして授業での生徒の様子（観察）とともに次のように評価の４観点に生かした。

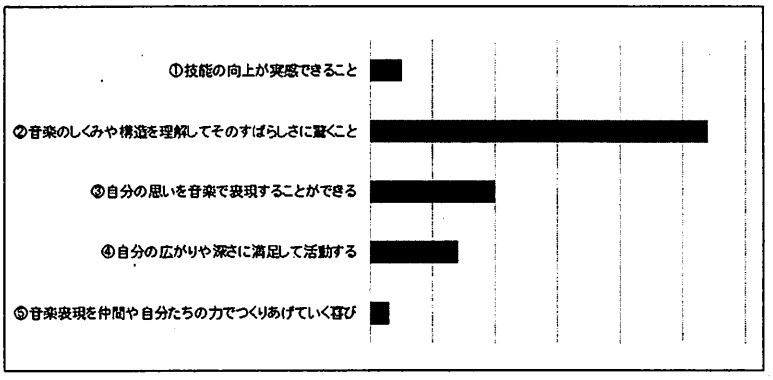
① 技能の向上が実感できること	→	ウ　音楽表現の技能	
② 音楽のしくみや構造を理解してそのすばらしさに驚くこと	→	イ　音楽表現の創意工夫	エ　鑑賞の能力
③ 自分の思いを音楽で表現することができる/音楽に感情移入できる	→	イ　音楽表現の創意工夫	エ　鑑賞の能力
④ 自分の広がりや深さに満足して活動すること	→	ア　音楽への関心・意欲・態度	
⑤ 音楽表現を仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜び	→	ア　音楽への関心・意欲・態度	

次のように記述した生徒では

> ぼくは小学校の時は歌は得意ではなかったけれど，少し上手に歌えるようになりました【①】。情景や心情を考えるようになりました【④】。

「少し上手に歌えるようになった」を「①」に，「情景や心情を考えるようになりました」を「④」に分類した。

②「音楽のしくみや構造を理解してそのすばらしさに驚くこと」への意識が高かった。特に「強弱を変えることで心情や情景を表現することができる」と強弱についての記述が多く，次に「リズム」や「速度」に関するもの，「音高」などの記述が多かった。③「自分の思いを音楽で表現することができる／音楽に感情移入できる」では，「以前に比べうまく歌えるようになった」や「鼻濁音で歌うと，言葉がはっきりする」といった気付きの記述が見られた。感動を分類していくことで，個人の生徒一人一人の意識の変化がよく分かり，生徒の実態が把握しやすくなった。今後，この題材で学習したことを，音楽表現活動においても生かしていけるようにしたい。



題材終了後　感動の分類

2　おわりに

誰しも幸せに生きたいと願っているはずである。幸せの捉えは人それぞれではあるが，生き方における動物と人間の決定的な違いは「より高く生きる」という点だと思う。音楽科の授業においても生涯音楽を楽しみ，より豊かな生活になるようにと，音楽の土台をより広げられるよう心掛けてきた。また，音楽をつくりあげていく過程において，仲間とともに幸福感や充実感を感じ，主体的によりよいものを追究してほしいと願って授業実践を行ってきた。音楽に内在する「きょうどう」の精神と音楽の演奏・聴取によって惹き起こされる「きょうどう」の精神は，激変する社会の中で生きていく生徒たちにとって，それらを乗り越える示唆を与えているように感じる。

引用および参考文献

楠敏明(2013)「温故知新！幸せ感じる音楽の力」初等教育研究紀要第47号未来を拓く力の育成（附属４校園共通主題）新しい「知」を作り出す

A.R.ダマシオ（2005）田中三彦訳「感じる脳：情動と感情の脳科学　よみがえるスピノザ」ダイヤモンド社

森本菜奈視・川添達也（2014）「『表現』（創作）と『鑑賞』の一体化をめざした教材開発の実践的研究」教育臨床総合研究13　2014研究，インターネット

金本正武・椎名直子・元吉秀行・山本早苗・本多佐保美（2006）「中学校における音楽科の指導と評価のすすめ方について―鑑賞指導をとおして―」千葉大学教育学部研究紀要第54巻，インターネット

行場次朗・箱田裕司（2014）「新・知性と感性の心理―認知心理学最前線―」福村出版

みつとみ敏郎（2003）「音楽はなぜ人を幸せにするのか」新潮選書